

BABOK を活用したチェックシートによる RFP 評価の試み

斉藤 篤史, 伊藤 恵

受託開発では、ユーザ企業が作成した RFP を基にベンダ企業がシステムを開発する場合がほとんどである。しかし、IT に精通していないユーザ企業も多く存在することから、RFP もベンダ企業に作成を依頼するケースが多い。そういった要因から要求を網羅することが難しくなり、要求漏れが発生してしまい、ユーザ企業が意図しないシステムが開発されてしまう。一方、上流工程で要求を網羅、整理するためのビジネスアナリシスを知識体系化した BABOK がある。BABOK は RFP 作成の一助となり得るが、ユーザ企業の中で RFP 作成の際に、BABOK を活用するに至っていないケースが多い。本研究では、この BABOK を活用して RFP に記載されている内容を評価するチェックシートを作成し、実験を通じてその有効性を評価する。これによって記載内容の不備を発見でき、BABOK の導入障壁が下がる効果が期待される。

In almost all of contract-based software development, vendor company develops software based on RFP made by user company. However, vendor company not only develops software but also make RFP because almost user companies are not familiar with IT well. That is why to cover requests is difficult, then software that user company does not intend is developed. On the other hand, BABOK, guide to business analysis body of knowledge, is published to organize requests in upper processes. BABOK may be helpful in creating RFP, but user companies do not use BABOK when they make RFP. So this study makes check sheet based on BABOK to evaluate the contents described in RFP. In addition, this study evaluates effectiveness of check sheet throughout experiments. By the check sheet, lack of description in RFP are easily discovered and the barrier of introduction of BABOK can be lowered.

1 はじめに

1.1 背景

現在、ソフトウェアの受託開発で、ユーザ企業が用意した RFP (Request for Proposal) を基にベンダ企業が開発を行うのが主流である。しかし、IT の分野に明るくないユーザ企業が多く存在することからベンダ企業に RFP 案の作成を依頼するケースは少なくない。これにより、ユーザ企業の潜在的な要求までも網羅することが困難になり、作成する RFP に要求漏れが発生してしまう。その結果、システムが完成した際にユーザ企業が意図していたシステムの内容と違うシステムが納品されてしまう。

こうした要求漏れを改善するためにビジネスアナリシスの知識体系である BABOK がある。BABOK は 7 つの知識領域とそれぞれの知識領域に対応するタスクとテクニックがあり、それらを実行することで要求漏れの改善を助けるものである。

しかし、BABOK のタスクとテクニックを実行するには、ビジネスアナリシスに精通していなければその実行が難しいので、ビジネスアナリシスの経験がないまたは経験の浅い人にとっては BABOK の活用は難しいといえる。

そこで本研究では、BABOK を活用してチェックシートを作成し RFP の記載内容を評価を試みる。また、実験によってその有効性を実証する。

Trial Evaluating of RFP by Check Sheet Based on BABOK.

Atsushi Saito, Kei Ito, 公立はこだて未来大学, Future University Hakodate.

2 関連研究

2.1 BABOK

組織の目的達成に役立つ解決策を推進できるようビジネスニーズやステークホルダーの課題を調査、分析し検証してそれらを取りまとめることを「ビジネスアナリシス」という。BABOK(Business Analysis Body of Knowledge)とは、そのビジネスアナリシスを行う上で重要なタスクとテクニックを知識体系化したものである。BABOKはカナダのトロントに本拠地を置くNPO法人、IIBA(International Institute of Business Analysis)が発刊し現在、BABOK2.0が発刊されている。BABOKには7つの知識領域があり、それぞれにビジネスアナリシスを実行するためのタスクとテクニックを定義している。以下に各知識領域について記述する。[1]

- エンタープライズアナリシス
ビジネスニーズを分析して定義し、そのニーズを満たすようなソリューションのアプローチを練り上げていく。
- 要求アナリシス
引き出した要求をビジネスニーズに関連させ、要求の優先順位を明確にする。
- ソリューションのアセスメントと妥当性確認
ソリューションがビジネスの目標を満たせるかどうか評価する。
- 引き出し
ソリューションに必要なものは何なのかステークホルダーから要求を引き出しその要求のベースを作成する。
- 要求のマネジメントとコミュニケーション
定義した要求を全てのステークホルダー(利害関係者)に共有させ、要求を管理する。プロジェクトの進行によって起こり得る要求の変更もなぜ変更するのか、その影響範囲はどの程度かなど明確にする。
- ビジネスアナリシスの計画とモニタリング
プロジェクトに必要なステークホルダーを特定し、その役割、責任を明確にする。またコミュニケーション方法も定義し、要求の変更や要求の承

認の際の承認者も定義する。

- 基礎コンピテンシ
要求の整理について記述したものでなく、ここではビジネスアナリストとして必要な知識や習得すべきスキルなどをまとめている。

2.2 BABOK の活用

前田[3]はITベンダがシステムの企画提案で何を定義すべきかを明確にすればプロジェクトの成功に導けるかを業務仕様のギャップをなくす点に絞り、BABOKを活用してプロジェクトマネジメントの視点から体系化した。また実際のシステム開発事例を基にその効果について考察している。ここでは、超上流工程のあり方としてユーザ企業だけでなくITベンダも参画しながらシステム構想をまとめていくことが望ましいとあり、やはりユーザ企業主体でBABOKを活用して超上流工程を行うことは難しいといえる。

3 本研究について

3.1 本研究の目的

本研究の目的はBABOKで紹介されているタスク、テクニックをRFPの記載内容を評価するチェック項目としてチェックシートを作成する。そして、そのチェックシートを実験を通してその有効性を実証する。なお、本研究で作成するチェックシートの使用場面では、ユーザ企業がRFPを作成した後のレビューとして使用される場面とRFPがベンダ企業に渡された後に、システム開発を行う前にそのRFPの記載内容を評価する2つの場面を想定している。

3.2 着目するBABOKのタスクとテクニック

BABOKでは要求を4つに分類し、「ビジネス要求」、「ステークホルダー要求」、「ソリューション要求」、「移行要求」に分けている。まずはそれぞれについて説明する。

- ビジネス要求
企業の目的や目標の概要。プロジェクトを立ち上げた理由や、プロジェクトが達成しようとする目標などを明確にする。組織全体としてのニーズを明確にする。

- ステークホルダー要求
プロジェクトに関わるステークホルダーの意見や要望。情報システムや業務プロセス、組織のあり方などに対する意見や要望を明確にする。
- ソリューション要求
ビジネス要求、ステークホルダー要求を満たすソリューションのこと。ソリューション要求には、システムの振る舞いなどについて触れた「機能要求」と信頼性や品質、セキュリティなどシステムの機能と直接関係しない「非機能要求」の2つがある。
- 移行要求
企業の現状から将来の理想的な状態へのスムーズに移行するための条件。既存システムからのデータの変換や移行、組織や業務の教育、配置転換などに関わる条件を明確にする。

BABOK の知識領域の中に「要求のマネジメントとコミュニケーション」がある。この知識領域にあるタスクで「要求パッケージを準備する」というのがある。要求パッケージとは要求を正しく漏れなくベンダ企業側に伝えるために、引き出した要求を資料にまとめることであり、RFP や BRD(ビジネス要求文書)などがこれに相当する。つまり、このタスクでは、RFP を作成するポイントについて触れている。

3.3 チェックシートの作成

チェックシートの作成に当たる参考として、広川智理「BABOK 超入門」に記載されているチェックリストを紹介する。[2] 本書ではビジネスアナリシスのタスクやテクニックをまたは実行する上で、それらをスムーズに実行できるよう独自にまとめたチェックリストが度々登場している。前項で触れた「要求パッケージを準備する」について 134~137 ページ中に記載されているチェックリストを紹介する。

要求パッケージを作る際のチェックリスト

- プロジェクトの目的が記されているか
- ビジネス要求が記されているか
- ビジネス要求に則したステークホルダー要求は記されているか
- ビジネス要求に則したソリューション要求 (機能

要求と非機能要求) は記されているか

- 移行要求は記されているか
- 要求の全体像や関係性を把握するための図はあるか
- 要求の優先順位付けは終わってるか
- 要求全体について、ステークホルダーの合意は取れているか
- 誤解を招くような表現は含まれていないか
- 第三者が正しく理解できるか
- 第三者の理解を助けるための用語集や補足資料を準備したか

● 作成者や承認者のサイン (または捺印) はあるか
BABOK では「ビジネス要求」、「ステークホルダー要求」、「ソリューション要求」、「移行要求」これら 4 つの要求を定義することが重要である。このことから、チェックシート作成に当たってこれらの項目の内から RFP の記載内容評価に期待できそうな以下の項目を採用する。

- プロジェクトの目的が記されているか
- ビジネス要求が記されているか
- ビジネス要求に則したステークホルダー要求は記されているか
- ビジネス要求に則したソリューション要求 (機能要求と非機能要求) は記されているか
- 移行要求は記されているか

これらの項目は 4 つの要求について触れており、RFP 作成に欠かせない内容である。しかし、一つ一つの項目を挙げると、チェック項目としてそのまま採用するには、抽象度が高く記載内容の評価には難しい。今後は、これらの項目を BABOK の他の知識領域と照らし合わせながら 1 つずつ分析して詳細にし、細分化することで容易に導入可能なチェックシートとする。図 1 にそのイメージ図を示す。

4 実験

4.1 実験題材

実験で使用する RFP の題材として、過去の PBL で作成された、あるプロジェクトの RFP を題材に、本研究で作成したチェックシートを基に RFP の評価を行う。このプロジェクトは、ある地方自治体の公共

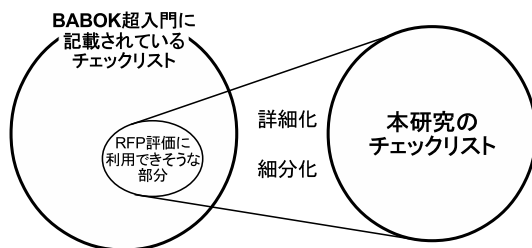


図1 イメージ図

施設の予約システムの構築を行うものであった。実験題材ではこのRFPを含め、最大4つのRFPを用意する予定だ。

4.2 実験内容

本研究で作成するチェックシートを用いて実際のRFPの記載内容を評価する。評価実験では、被験者として、過去にPBL経験のある者最大10名で行う予定だ。実験の内容は被験者に、題材として扱うRFPを本研究で作成するチェックシートと照らし合わせながら読んでもらい、その都度そのチェックシートでRFPを評価してもらおう。被験者全員が全てのRFPを評価した際に、それぞれのRFPが被験者によらず同じ傾向の評価を示せば、チェックシートによる有効性の妥当性を計ることができると思う。

4.3 チェックシートの評価基準

実験によってチェックシートの有効性の妥当性を評価するがチェックシートの評価基準として、

- RFPの記載内容の不備を十分に検出できるか

- 不備でない部分を誤って検出しないか
- 誰が評価しても同じ傾向の評価の結果になるか
- RFPを評価する際にこのチェックシートが評価に導入しやすいか

などの項目が挙げられる。これらの項目をまとめてアンケート形式にし、被験者がRFP評価を終えた後に、チェックシート自体の評価をアンケートで回答してもらおう予定だ。

4.4 期待される効果

チェックシートによるRFPの記載内容を評価することで、RFPの記載不備を発見でき、BABOKの導入障壁が下がる効果を期待している。

5 おわりに

5.1 まとめ

チェックシートの作成に当たり、まずは、BABOKの知識領域の1つである「要求のマネジメントとコミュニケーション」の「要求パッケージの準備」のタスクを主軸として作成していくことにした。しかし、今回紹介したチェックリストだけでは詳細な項目をカテゴリ分けする指針にはなりうるが、詳細な項目としての活用は難しく感じる。今後は他の知識領域も分析してRFPのチェックに必要な項目を決定しチェックシート項目に盛り込み、実験を行いながら実際にその有効性を実証していく。

参考文献

- [1] 清水千博, 川添真智子, 銅谷克樹:「やさしくわかるBABOK」, 株式会社秀和システム, 2011.
- [2] 広川智理: BABOK超入門, 日経BP社, 2011.
- [3] 前田雅文:「超上流工程における「BABOK」を活用した成功要素の体系化」, Journal of the Society of Project Management, Vol.13, No.2, pp.12-17, 2011.